

平成29年度 北海道トランポリン協会第3回理事会議事録

と き 平成29年3月11日(日)

午後1時00分～午後7時00分

ところ 札幌市 第1道通ビル9F 901号室

- 1 開 会 理事長
- 2 会長挨拶 松木会長が来られた時にいただく予定
- 3 権限審査 理事14名中、出席者11名、委任状 2名、欠席者 1名 により成立
- 4 議長指名 規約に基づき会長に代わり佐藤副会長を指名(なお、5時に退席されたため、以後は村本副会長が議長を引き継いだ)
- 5 書 記 規約第15条第5項により庶務部長 北側を指名
- 6 議 事

(1) 報告事項

ア 理事長

① 東日本協会理事会報告

- ・東日本協会表彰規定について、意見を求めるアンケートが届き変更なしとした旨、口頭報告がなされた。
- ・次年度の東日本協会理事の選出を求められたとの口頭報告がなされた。

② 役員人事について

- ・中野強化部長の欠席理由について説明があり、今後の強化部の方向性について考えていきたい旨の口頭報告がなされた。(久保田理事から補足説明もなされた。)

③ 全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会の北海道開催について (p1・資料1参照)

- ・資料1の通り報告がなされた。

イ 事務局長

① 北海道選手権大会等の収支決算報告 (p2・資料2参照)

- ・資料2の通り報告がなされた。

② 平成30年度北海道協会登録手続きについて (p3,4・資料3参照)

- ・資料3の通り報告がなされた。
- ・登録資料送付先の確認があった。

ウ 総務委員会

(7) 企画部 (p5,6・資料4参照)

① 北海道トランポリン協会 国体対策推進状況

- ・資料4\_1の通り報告と説明がなされた。
- ・今後、北海道選手権の主催は道体協、主管は北海道体操連盟となるとの説明がなされた。
- ・理事長から道体協競技力向上委員会時に道体協役員(石本氏から近藤氏に代わる)と同様の話し合いを行った旨の報告がなされた。

② 全国代表者会議の内容 (別冊資料参照)

- ・別冊資料を基に資料4\_2の通り報告と説明がなされた。

③ コーチ育成委員会関係

- ・資料4\_3の通り報告と説明がなされた。

④ 情報提供

- ・資料4\_4の通り報告と説明がなされた。
- ・理事長から全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会予選会について北海道の立場等を説明

してもらおうよう申し入れがあった。

## エ 競技委員会

### (7) 審判部 (p7,8・資料5)

- ① 公認審判員認定講習会・研修会について (p10・資料5-①参照)
  - ・資料5\_報告1の通り及び資料5-①(事務費訂正あり)について報告がなされた。
- ② 審判部主催実技講習会について
  - ・資料5\_報告2の通り報告がなされた。
- ③ JGA登録者・保留者一覧について (p11・資料5-②参照)
  - ・資料5-②について説明と報告がなされた。
- ④ 審判実績について (p12・資料5-③参照)
  - ・資料5-③について説明と報告がなされた。
- ⑤ 平成30年度JGA登録スケジュールについて
  - ・資料5\_報告5の通り報告がなされた。

## (2) 協議事項

### ア 理事長

- ① 平成30年度開催大会の確認 (p13・資料6参照)
  - ・資料6のとおり、各大会を開催する地区が確認された。
  - ・北海道シャトル競技大会については札幌市南区体育館で実施することが確認された。
- ② 全国高等学校トランポリン競技選手権大会の北海道開催について (p14・資料7参照)
  - ・資料7を基に、大会開催依頼を受けることとなった経緯について説明があった。
  - ・全国高等学校トランポリン連盟の依頼を受諾し、釧路市で開催することが決定された。
- ③ 北海道トランポリン協会設立40周年記念事業について (p15・資料8参照)
  - ・資料8を基に、開催日程等の説明があり、平成30年9月15日(北海道年齢別選手権大会初日—釧路市)に行うことが決定された。
  - ・記念誌の発行については、平成31年をめどに10年間分の資料で発行することが確認された。
  - ・表彰については、表彰規定にのっとって表彰者を決定することが確認された。

### イ 事務局長

- ① 平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画(案)について (p16,p17・資料9参照)
  - ・資料9に基づいて確認があり、修正がなされた。3月末までに追加修正があれば事務局に連絡し、修正することが確認された。
- ② 平成29年度収支決算及び平成30年度収支予算(案)について (p18~p21・資料10-①参照、p22,10-②参照)
  - ・決算については、今後、助成金等修正が発生することが確認された。
  - ・道体操連盟に入っている還付金の確認をし、入金するよう確認された。
  - ・バッヂテストの還付金の確認があり、次年度の振込先を道協会にするよう確認された。
  - ・予算案について、何点か修正確認があったのち、現在までの部分について承認された。
- ③ 平成30年度代議員会の開催について (p23・資料11参照)
  - ・資料11に基づき、4月8日(日)開催が確認された。

### ウ 総務委員会

#### (7) 庶務部 (p24・資料12参照)

- ① 大会撮影許可申請について

- ・申請料はとらないこと、各団体の申請により2枚の許可証を発行することが決定された。
- ・できれば、ビブスを貸与し着用してもらうことが望ましいとの意見があった。
- ・代議員会後では、北海道ジュニア選手権の要項発送に間に合わないことから、年齢別選手権から実施する確認がなされた。

## ② 大会プログラムの有料化について

- ・大会プログラムは有料化（500円）とすることが決定された。
- ・各団体に2部、役員、審判員等に1部を配布し、他は、大会申し込み時に購入部数の確認を行うことが決定された。

## (イ) 企画部 (p6・資料4\_5 企画部からの協議・提案事項参照)

### ① 選手・審判のマーチンについて

- ・資料4\_5のとおり、全国の大会に合わせたスタイルの大会進行を行うことが、選手の為にもなることから、全道ジュニア大会から試験的に実施することが確認された。
- ・また、大会進行を行う主体について、専門スタッフ化等も考慮に入れて競技部等が担っていく方向で、今後、検討していくことが確認された。

### ② 国体監督の選出について

- ・次回理事会で再度話し合うことが確認された。

## エ 普及委員会

### (ア) 普及部

#### ① 指導員認定講習会について (p25, 26・資料13参照)

- ・資料13に基づき説明があり、承認された。(宿泊、教本料が変更になる可能性あり)

## オ 競技委員会

### (ア) 競技部・強化部

#### ① 北海道選手権・国体予選の大会要項(案)について (p27~p30・資料14参照)

- ・資料14を基に、開催要項内容の検討を行い、以下の点について確認と決定がなされた。
  - 主管は、北海道体操協会
  - 国体代表選手に対する助成金は、北海道体育協会から出される。
  - 参加料は、選考会のみ出場する選手からは2,000円を徴収するが、大会に参加する選手で選考会にも出場する選手については、北海道体育協会に選考会料等の支払いが生じるか確認後、参加料(3,000円)の他に2,000円徴収するか決定する。  
⇒確認者は理事長(確認した結果、1名につき1,500円が生じることが判明したため、国体選考会に出場する選手すべてから2,000円を徴収する必要があると考えられます。)
  - 「ふるさと選手」については、あくまでもオープン参加である。順位には関係しないため登録料は必要ない。参加料については、iiiの点を踏まえて決定する。
  - 大会日程は、10月27日、28日に訂正する。
  - 難度基準・構成
    - Aクラス 特別要求はすべてカットし、難度基準・構成に制限は設けない。
    - Bクラス 難度得点は6.5点以下の自由演技とする。構成に制限は設けない。
    - Cクラス 難度得点は4.5点以下の自由演技とする。構成に制限は設けない。
 シンクロナイズドについても同様とする。
  - 特別要求の取り扱いについては、ア、ウの文言はカットし、イの文言のみ残す。

#### ② 全道ジュニア大会における認定基準等の見直し(案)について (p31・資料15、p32・15-①参照)

- ・資料 15\_1 の通りとすることが決定された。
- ③ 全道ジュニア大会(低学年)及び全道年齢別選手権で「四つん這い～前方宙返り」を演技に組み込むことについて (p31・資料 15 参照)
  - ・低学年の文言を外し、「全道ジュニア大会及び全道年齢別選手権でのみ使用可能とする。」とすることが決定された。
- ④ 全道ジュニア大会に参加できない選手の全日本ジュニア大会選考基準について (p31・資料 15 参照)
  - ・資料 15\_3 の通りとし、選手は申告(申告料は 1,000 円)のみとし、自己の成績等の提出は不要とすることが決定された。
- ⑤ 強化選手の選出基準について (p31・資料 15 参照)
  - ・理事長から、北海道体育協会の情報として、強化指定選手については中学生以上だが、小学生について、日帰りで練習会参加を認めるとのことから、補助金が出るとの内容が報告された。
  - ・強化選手の公表及び決定発表は、前年度 1 年間に行われた競技会の成績により決定し、3 月に決定して発表することが決定された。
  - ・発表は、平成 31 年度からホームページで発表することが決定された。
  - ・平成 30 年度は、各理事からデータを審判部(小林先生)に集め、競技委員会で決定、委員長名で発表することが決定された。

#### (イ) 審判部 (p8～p9・資料 5 参照)

- ① H30 年度備品購入予算の要求について (資料 5\_協議 1 参照)
  - ・TMD用の低スペックPCについては、29 年度で購入することが決定され、決算に掲載することが決定された。
  - ・採点システム用PC(コア i5 程度)については、30 年度予算に計上することが決定された。
  - ・Hスコア採点用ビデオカメラについては、F I Gルール等、今後の動向を確認しながら購入を検討するが、採点システム用PCと合わせて審判採点機器整備費(200,000 円)として、30 年度予算に計上することが決定された。
- ② 審判部主催実務講習会について (資料 5\_協議 2 参照)
  - ・資料 5\_協議 2 のとおりとして、実質経費がかからない J G A講習会に合わせて実施し、できるだけ各地区の強化練習会等の際に抱き合わせで実施することとし、事業計画に盛り込むことが決定された。
- ③ 大会申込方法の変更について (資料 5\_協議 3 参照)
  - ・資料 5\_協議 3 のとおりとすることが決定されたが、競技部を増員しなければ、負担が大きい旨の意見が出され、規約等の見直しが必要であることが確認された。そのため、代議員会にて決定する必要があることから、30 年度は見送り、各理事の各部の業務、人員等に関する意見を次回理事会までに各自文書で作成し、次回理事会でまとめ、規約改正案等を作成後、30 年度中に協議を進め代議員会で決定して、31 年度から実施できるようにすることが決定された。
  - ・なお、資料 5\_協議 3 の 2 項の試技順作成後の送付先に主管協会(競技開催地区協会)を含める確認がなされた。
- ④ 大会運営・審判構成等の検討について (資料 5\_協議 4 参照)
  - ・確認事項に対して、大会運営の取り決め上、本来、このような「お詫び、報告」は不要との意見が出された。
  - ・今回の大会や北海道の現状では、審判部としてミスジャッジに対する対応を大会運営の取り決めとして突き放す域には達していないと考えられるとの意見が出された。

- ・今後、主管団体の負担を軽減し、ジャッジスキルの向上、審判の配置等を含め資料 5\_協議 4 のとおり進め、大会運営の取り決めに遵守できる体制を整えることが確認された。
- ・選手が点数を落ち着いて確認できる場所と時間を確保することが提案され、その配慮は必要である旨が確認された。

⑤ 2種カテゴリー分け（北海道独自）について（資料 5\_協議 5 参照）

- ・カテゴリー分けにより、モチベーションの低下が発生しないか話し合いが行われた。
- ・カテゴリー分けの必要性について話し合いが行われた。

⑥ 1種審判資格取得に対する補助について（資料 5\_協議 6 参照）

- ・補助金は、資格取得合格者のみに出せば、それほど大きなものにはならないとの意見が出された。
- ・講習会の残金等で財源を捻出できるのであれば、実施しても良いのではという意見が出された。
- ・中央へ行かなければ、1種審判の資格を取れない現状では、北海道で1種審判取得者の増加が望めないことが危惧されるとの意見が出され、対策の必要性と危機感を理事として共有したい旨の希望が審判部から出された。

☆ ⑤、⑥については、30年度の財源確保状況等を鑑みてから、審判部から再協議として提出されることが決定した。

⑦ 審判部員の増員について（資料 5\_協議 7 参照）

- ・記録として役員に名前が入っている先生をシステム担当者として大会参加できるようにして欲しい旨の要望が出された。
- ・前オ(イ)③の中で決定した規約改正のことも含め、次回理事会で協議することが決定した。

カ その他の協議事項

(7) 各理事等

① 第3回理事会に部員等を参加させることについて（p6・資料 4\_6 一理事としての要望事項参照）

- ・会議に出席ということだけではなく、役員の横のつながりをしっかり持てる状況を考えてはいかかという、提案が出された。
- ・現在の体制について、副会長から説明があった。
- ・部長と部員のつながりを持つため、例として部員を部長が指名する方法が上げられ、理事長から会長指名理事とする方策を取った過去の経緯などが話された。
- ・理事長から部員を含めた理事会の開催の必要性はあるとの意見が出された。
- ・大会時の理事会で、部長の判断で部員を理事会に参加させてはとの意見が出された。
- ・大きな問題は旅費との意見があり、旅費規程の見直しが必要であるとの意見が出された。
- ・実際に必要な経費等を試算して、今後、前向きに検討し協議することが確認された。

② 役員配置等の規約の改正について

- ・前オ(イ)③に準ずることが確認された。

(イ) 持越し協議事項について（p33・資料 16 参照）

① 審判員認定講習の講習料のバックアップ等について

- ・前オ(イ)⑥で協議済み。

② 各大会の団体戦について

- ・将来は、北海道選手権で団体の決勝を行うことも見据えていくことが確認された。
- ・全道大会は3人若しくは4人でエントリーし、3人の成績で順位を決定することが決定された。なお、チームは各団体複数エントリー可能とした。
- ・ジュニア大会と年齢別は、これまで通りとすることが決定された。

### ③ 北海道独自ルール等のローカル規則の製本化について

- ・競技部が中心となって、競技委員会で作成するが、内容について30年度の理事会等で継続協議することが確認された。

### ④ 審判会議の簡素化について

- ・代表者会議を行った後に、審判会議を行うことが確認された。
- ・審判会議の進行等は、審判部長に一任された。

## (3) その他

### ア 理事長

東日本協会の理事は、山崎理事長が選任された。

### イ 企画部長

F I G会長挨拶のビデオを代議員会で放映することが確認された。

## (4) 議事内容、決定事項等確認

### ア 庶務部

後日、メール連絡により確認することとした。

## 7 閉 会